

授業科目名	保育者論	教員名	山下 愛実	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
科目番号	SEN105	配当年次	1年後期		こども音楽療育士	
授業形態	講義				情報処理士	
単位数	2単位					
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	保育者に求められる資質と役割、保育者の仕事内容、保育者の専門性など、保育者という仕事の概論を理解する。また、保育者の学び合う姿勢が保育者としての専門性の向上につながることを理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>3. 保育士の専門性について考察し、理解する。</li> <li>4. 保育者の連携・協働について理解する。</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ol>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>保育のまなざしが必要となる多様な現場の理解を目指す。保育者の役割と倫理、制度的な位置づけを理解しつつ、保育者の専門性を多面的に考察する。さらに、保育者としての専門性を向上させるために資質向上やキャリア形成に取り組んでいく必要性を理解する。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取り入れる。</p>					
履修条件・注意事項	保育士資格取得のための必修科目である。					
授業計画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） ・幼児教育・保育の特質を理解するとともに、保育の仕事について理解する。（目標3）</p> <p>第2回：保育士の制度的位置づけについて ・幼児教育の法的位置づけを理解する。また、幼児教育・保育施設の根拠法令とその内容を理解する。さらに、児童福祉法における保育士に関する規定を理解する。（目標2、5）</p> <p>第3回：保育士の専門性について① ・さまざまな福祉の現場で活躍する保育者に焦点をあて、グループでディスカッションしながら共通点と相違点を整理し、専門性を考える。（目標3、4）</p> <p>第4-5回：保育士の専門性について② ・さまざまな福祉の現場で活躍する保育者の専門性に焦点をあて、グループディスカッションを通して保育の仕事の社会的意義や専門性についての理解を深める。（目標3、4）</p> <p>第6回：子ども理解を基軸とした保育について ・実際の保育現場において、参与観察を行うことを通して、子どもと関わり、子どもの興味・関心・発達を捉える視点を養う。また、保育者による環境構成の工夫に着目し、子どもの育ちと保育者の意図の関係性を考え、子ども理解を基軸とした保育についての理解を深める。（目標1、3）</p> <p>第7回：わが国における幼児教育・保育 ・わが国における幼児教育・保育のはじまりから現在に至るまでの「指導」の捉え方の内容の変遷に着目し、多角的に「保育」のいとなみを捉え、保育の理解を深める。（目標3、4）</p> <p>第8回：子どもの人権と保育 ・「児童の権利に関する条約」「こども基本法」をもとに、子どもの権利について考える。また、「不適切な保育」の事例をもとに、子どもの人権を尊重する保育についてグループディスカッションし、子どもの人権を尊重する保育についての理解を深める。（目標3）</p> <p>第9回：諸外国の特色ある保育① ・諸外国の特色ある保育（シュタイナー教育）について学び、それぞれの相違点と共通点を踏まえ、多角的に保育実践を捉える力を養う。子どもの経験や生活に着目することで、子どもの育ちを支える環境や保育方法の多様さへの理解を深める。（目標1、3）</p> <p>第10回：諸外国の特色ある保育② ・諸外国の特色ある保育（モンテッソーリ・メソッド）について学び、それぞれの相違点と共通点を踏まえ、多角的に保育実践を捉える力を養う。子どもの経験や生活に着目することで、子どもの育ちを支える環境や保育方法の多様さへの理解を深める。（目標1、3）</p>					

	<p>第11回：諸外国の特色ある保育③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸外国の特色ある保育（もりの幼稚園）について学び、それぞれの相違点と共通点を踏まえ、多角的に保育実践を捉える力を養う。子どもの経験や生活に着目することで、子どもの育ちを支える環境や保育方法の多様さへの理解を深める。（目標1、3）</li> </ul> <p>第12回：諸外国の特色ある保育④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸外国の特色ある保育（レッジョ・エミリアの乳幼児教育実践）について学び、それぞれの相違点と共通点を踏まえ、多角的に保育実践を捉える力を養う。子どもの経験や生活に着目することで、子どもの育ちを支える環境や保育方法の多様さへの理解を深める。（目標1、3）</li> </ul> <p>第13回：児童文化財の製作と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとともに楽しめるようにするための工夫を考えながら児童文化財の製作し、子どもの心を感じられる感性と子どもの視点から物事を捉える視点を養う。（目標3、5）</li> </ul> <p>第14回：グループ教材研究と発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども主体の保育に向け、グループでの教材研究を行い、探究の視点を考え、理解する。また、全体発表を通して、子どもにとっての面白さを多角的に考える。（目標3、5）</li> </ul> <p>第15回：保育者の資質向上とキャリア形成（目標5）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『保育の中の小さなこと大切なこと』を読み、子どもとの関わりにおいて保育者として大切にしたいことを考える。全体発表を通して、保育者に求められる資質・能力について理解する。</li> </ul> <p>期末試験</p>
授業外学修時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：配布資料の確認、前回の講義内容の復習、提示する課題の作成等</p> <p>事後学習：講義内容の復習、振り返り・課題やレポート作成等</p>
学生に対する評価	<p>授業への取り組み20%・授業で提示する課題20%・期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
テキスト	<p>汐見稔幸・大豆生田啓友監修（2019）『アクティベート保育学02 保育者論』ミネルヴァ書房</p>
参考書・参考資料等	<p>内田信子（1998）『まごころの保育―堀合文子のことばと実践に学ぶ―』小学館</p> <p>厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館</p> <p>文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>「全国保育士会倫理綱領」</p> <p>なお適宜資料を配布する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。</p>
オフィスアワー	<p>毎週 金曜日 9:05~10:35（メール等でアポイントを取ることに）</p>
備考	